

ギアモデルのステップである「学ぶ」という言葉の使い方に関する意見

	内容
1	<p>「学ぶ」ことについて</p> <p>学ぶ → 考える → 行動する</p> <p> </p> <p>学習(活動) 考え方 行動様式</p> <p>私たちは、学習活動をする中で、様々な知識・技術・情報を習得したり、体得したりする。そして新たに知識・技術・情報等を習得・体得すると、考え方・行動様式に変容が生じる。ただ、「変容」も変化後の方が変化前より、質・量ともに高くなっていないといけない。逆(低下)もありうるから。</p> <p><u>学習は考え方の変容だけでなく、行動様式の変容も考える必要がある。行動様式の変容は個人や社会の力を高めることに関係している。</u></p> <p>これからの公共に関する政策(環境問題に関する内容も含めて)には、行政だけで行うことは不可能であり、それを担う市民の育成には「学習活動＝生涯学習」が必要となる。そして、これが地域振興にもつながるのである。</p> <p>そのため、「学習活動」を行政が提供したり、関わっていくことが大切である。</p> <p><u>知識を得ることと学ぶことは大きく異ならないと思う。</u></p>
2	<p>・「概要版(最終案)」の「基本目標」については、「単なる『学び』に留まらず」が決定稿では修正いただけだったので、委員会時の違和感は解消されました。</p> <p>・ギアモデルの「学ぶ」については、この計画では、「気付く」「考える」「行動する」「つながる」も、環境学習(学び)を推進するための支援と捉える(計画24ページの「県の施策方針にもある内容」と、ギアモデルに書かれている「学び」の場所にあるものは、どちらかと言えば「知る・調べる」のステップかなと思います。ただ、文部科学省でいう「学び」という言葉との整合性などもあるかと思しますので、計画内では、知識等を得ること(勉強)と、他者とのコミュニケーションや体験・行動することなどによって得ること(価値観・能力等)が混同しないように記述されていると分かりよいのではないかと思います。</p> <p>・話が少しそれてしまいますが、SDGsや脱炭素社会など、一層複雑で重層化した課題解決に向かいながら人も社会も変容していくには、個々人の学びや行動変容を促すだけでは追いつかず、これからはますます「周りの人の学びや行動変容を促す個々人の行動」を高めることが求められていると感じています。例えば、ギアが回り続けるなかで、「考える」において、どうすれば社会の変容を促せるか(自分以外の人々の価値変容を促せるか)を考えるステージがあったり、「行動する」や「つながる」といった学びのステップにおいて、関心層から潜在層等へのチャンネルがつくられると、人が人を育てるというサイクルが加速するきっかけになるのではないかと思います。余談でした。</p>

・これまでのご意見において、「学ぶ」という言葉は、環境学習全体のどの段階をも表す言葉であるために、違和感をもつということだったかと思えます。私もそう感じた一人です。

・計画の第一章3. 計画の期間の後の囲みに、「環境教育」と「環境学習」について記述がありますが、「単に『教わる』のではなく、より積極的・主体的に『学ぶ』姿勢を表す言葉として、『環境学習』の言葉を用いています」とありますね。ここでの「学ぶ」、はギアモデルの学ぶと同義ですか？

・幼児期においても、「遊びが学び」という認識があり(*1)、「学ぶ」はどちらかという「学習」よりも、広義の意味で使ってきたように思います。

・ギアモデルのステップの言葉として、ここで言いたい「学ぶ」は、たとえば、「知る」とか「深める」という意味かなと想像していました。

・井手先生のご説明で、「教育業界の言葉というより、一般的な意味で使っている」というようなことだったかと記憶しています。教育業界だけの使い方、理解、であれば、あまり意味がないですね。

より広く理解してもらえる言葉をさがれたらと思います。

*1 「幼稚園教育要領」第1章総則より

第1 2 幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として、第2章に示すねらいが総合的に達成されるようにすること

3

.....
語義からいくと、学ぶはまねぶ、だったりして、ここではあまり意味がないかと思えますが、自身のためにひいてみました。

まなぶ【学ぶ】

広辞苑

- 1 まねてする。ならって行う。
- 2 教えを受ける。業を受ける。
- 3 物事を知り、また、それに習熟するために、修め、究める。学問をする。

GOO辞書

- 1 勉強する。学問をする。「大学で心理学を—・ぶ」「同じ学校で—・んだ仲間」
- 2 教えを受けたり見習ったりして、知識や技芸を身につける。習得する。「よく—・びよく遊べ」
- 3 経験することによって知る。「苦勞して人間のすばらしさを—・んだ」
- 4 まねをする。「五月に雨の声を—・ぶらむもあはれなり」

ギアモデルの学ぶについて。

1, 自然、世界との出会い

親に連れられこの世界を知る。これは親の影響を強く受け、その世界の広さを決定する。親の環境に関する意識が高ければ広く、そうでなければ狭くなる。

2, 幼少期の学ぶ 親に導入された世界の中で5感を通して見る、聞く、触れる、匂う、味わうを色んなフィールドでとことん体験する。これが後の原体験となり非常に重要である。

3, 生死の学び 2,の中で必ず生死の現実を目の当たりにする。これも大切な原体験であり、その後の死生観の源となる。

4, 小学校高学年、中学生となると自分で今体験していることを調べたいという欲求が出てくる。客観的に見る力が付いてくる。色んなことを深掘りして事実の真実を知る。それはプラスもあればマイナスもある。

5, 1~4の学びにより高校生の頃よりアイデンティティが形成される。学校で学ぶ勉強以外に確実に強く形成される。滋賀県なら琵琶湖における体験などアイデンティティの源がある。

6, 1~5を経て「滋賀県民」となる。自然、環境に理解ある良識ある人材となるだろう。こういった学びを経ることで、優秀な人材が生まれることでギアモデルの大きなエネルギーとなり、力強く回すこととなるだろう。

またイメージが出て来ましたのでこれはいかがでしょうか？

ギアモデルの学ぶ

学び舎は琵琶湖をはじめとする大自然にあり。

学び場は身近な小自然にあり。

学ぶ友は5感（触れる、見る、聴く、匂う、味わう）を通して共有する。

学ぶ師は己も日々切磋琢磨し、子供たちとともに学び世界を広げる。

学ぶ子供の親は子供たちの自然との接点を理解し温かい目で見守る。

学ぶ滋賀県民は老若男女全てが参加する。

学ぶことで滋賀県民であることに誇りを持ちその熱は何かを動かすであろう。

滋賀県民であるというアイデンティティは強固である。

熱いエネルギーはギアモデルの歯車を率先して力強く回すであろう。

前回の会議で出ておりました、「学ぶ」という言葉の使い方についてですが、今までの委員会におきましては、個々のアクションという捉え方で、4つのギアを考えたと思います。

5 確かにおっしゃるようすべてをひっくるめて、学びであるということは、その通りだと思います。そうであれば、ギア全体が学びであり、気づく⇒考える⇒行動するとなります。気づいてすぐに考えられるのかというところで、プラスα（例えば理解したり知識をみにつけたりする部分が必要です）それを「限定された学び」という言葉に置き換えてきたのだと思います。

しかし、やはり、「気づく」ことも「学び」であり、「考える」ことも「学び」です。よって、もう一度検討し、次回は違った書きぶりをするほうが良いと考えます。

6	<p><u>現在のギアモデルのステップにおける「学ぶ」という言葉は、【知識の習得】という意味合いを主とした狭義的な使い方をしていると私は捉えています。</u></p> <p>このままでも意味合いは通じるとは思いますが、学校教員の立場からすると、かなり限定的な使い方であり、同じステップに「学ぶ」と「気づく・考える」が使われていることに違和感を感じます。</p> <p>また、環境学習の「学習」とギアモデルの「学ぶ」という言葉を同義と捉えてしまうと、それぞれの意味に大きな隔たりがあるにもかかわらず、それぞれが誤解されてしまう恐れがあると考えます。</p> <p>よって<u>ギアモデルのステップにおいては「調べる」や「知る」という言葉に置き換えることが良いのではないかと考えます。</u></p> <p>また、「学び」という言葉を、【気づく・知識を得る・考える（・行動する）】と捉えるのならば、概要版■基本目標の《※単なる「学び」》という表現についても一考する必要があるかと思えます。ここは、《単なる知識の習得》などへの変更が良いと考えます。</p>
7	<p>市民活動やまちづくりの分野では、地域にある課題に「気づき」、その現状について調べたり、関わる制度について理解し、関係する人のニーズを把握するなど、「調べる」「理解する」「現状把握する」をして、どんな活動するべきか「考える」、そこから「行動する」というサイクルのイメージです。</p> <p>ただ、<u>「学ぶ」という言葉でも違和感なくギアモデルを見ていました。</u>それは、<u>調べたり、理解したり、現状把握も地域を「学ぶ」と表現します</u>ので。</p> <p>しかし、「学ぶ」が教育関係の方々にとっては、もっと大きな捉え方をされるものであるなら、<u>「調べる」「理解する」という言葉の方が合うかもしれない</u>と思えました。</p>
8	<p><u>環境学習の推進のギアモデルは、学び【環境学習】サイクルだと思えますが、その一段階に「学ぶ」という言葉があるのは少し違和感を感じます。</u></p>